

発行責任者
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会
湘南支部長 清崎 忠園
平塚市豊原町 23 - 14
Tel(Fax) : 0463-31-6718

隊友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

市ヶ谷台からの景色

特別会員 井岡 成吉

「あ、米軍のスリースターの車が来た！」緊張が走り、思わず背筋が伸びる（私は民間人なのでその必要はないのだが）。「防衛省市ヶ谷台ツアー」のどば口、正門で受付中の出来事で「まさしく防衛省の本丸なのだ」と、まずは実感した次第である（さぞかし警衛勤務は気疲れすることだろうと）。

現在の防衛省市ヶ谷地区は「ご存じの通り防衛省庁舎や中央指揮所が置かれている国防の中核であり、当然ながら許可された部分を外から見学するに留まるがそれでも「実物」に接することはない。何故なら、行き交う各隊員・職員の姿や雰囲気・表情などから士気を感じたりする事が出来るからである。

また、見学コースの建物や構造物も「本物」であることに感謝と敬意を払いたい。何故なら、同じ場所に立つことでその重さを体感し、自分なりの「想いを馳せる」ことが大事だと思うからである。そして今回初見であった「大本営地下壕跡」の見学時に「当たり前準備を行う」という必要性をあらためて考えずにはいられなかったことがある。

昭和16年12月に大本営陸軍部、陸軍省、参謀本部等の陸軍中枢機関がこの地に移転することを受け、上空7,000mから投下の1t爆弾にも耐えられる厚さ4mの鉄筋コンクリート構造を用い、500kg弾にも耐える堅固な鉄扉も設置して対米戦を意識した壕を準備したのであろうということである。

仮想敵国の攻撃に耐え得る備えは軍官民間問わず継戦能力を維持する上で重要であり、それは今回のウクライナ戦

争を鑑みればたいへんよく実感できることなのである。大本営地下壕とは比べようがないが、振り返れば自分がまだ子供の頃（S40年代）には近所の山腹にいくつもの防空壕（跡）を見ることが出来たが、いずれも立ち入り禁止で内部を見たことはなかった。再整備されること無く、その後必要な備えとして活かすことが為されないままに朽ちていったのだと思う。

：そのような志向の末に今がある。必要なシェルターはあるか？ 必要な掩体は足りているか？ いずれも否である。主権の保護も、国民の命の保護も、今の日本は思考停止的な片手落ちのままなのである。

先般の中国人民解放軍による台湾周辺軍事演習の際に一つの手の内が形に現れた。台湾進攻時にはまず台湾への接近禁止区域を設定・宣言し、次に日本の南西諸島の目と鼻の先に演習と称してミサイルを撃ち込んで「関わるな！」と日本を威嚇する。そして、台湾への攻撃開始直前には米軍との直接戦闘を避けつつも、尖閣・与那国・石垣・宮古方面への航空&海上優勢を確保すべく、あらゆる方法を用いて全力で襲いかかってくるはずである。その時までには日本国としてどのような対抗的な手段を構築し、相手を抑止するの

- か？
- ・日本のシーレーン防衛は？
- ・避難しきれない島民の命を守る為のシェルターは？
- ・南西諸島方面に投入可能な作戦機等の掩体は？
- ・反撃可能な陸海空自衛隊のミサイル等の必要本数等は？
- ・米軍未参加時の継戦&補給能力の構築は？
- ・ミサイル着弾時（通常弾頭）の殺傷

被害の範囲・程度等、正確な具体的知識の周知や負傷時の応急処置の民間人の訓練は？

左傾化している勢力への対策は？ 等々、ざっと思いつくことだけでもキリがない。主権と命を守ることに手をこまねいてはならないはずなのに、残念ながら現政権の動きは重くて遅く、歯がゆいばかりである。80年も前、今よりも遙に現実を直視していたことを静かに大本営防空壕跡はわれわれに語っているのかも知れない…

「必要な備えを整えよ！」…と。大東亜戦の敗戦後数十年、危機に對する重心のズレを修正しないまま、出来ることも放置してきたこれまでの国防政策の現状を改めて考えるひとつの機会となった「市ヶ谷台からの景色」であった。

：尚、末筆ではありますが、支部長を始めとする担当役員の方々のご尽力により貴重な機会を頂けたことに心からの御礼を申し上げます。今後の湘南支部の各種活動を大いに期待しています。ありがとうございました。

隊友会湘南支部部隊研修

「防衛省市ヶ谷ツアー」を担当して

支部理事役 高鹿 治雄

隊友会湘南支部は、令和2年春新型コロナウイルス感染拡大（パンデミック）以来中止していた部隊研修を、令和4年9月29日（木）実施した。湘南支部初となる「防衛省市ヶ谷ツアー」は、防衛省企画の人数制限から特別会員のみの参加募集となりましたが、当日は晴天にも恵まれ、部隊研修を楽しみにした17名全員（特別会員14名、理事役3名）が参加しました。部隊研

修は、防衛省市ヶ谷正門前に13…00現地集合から始まり事前に提出した名簿と当日の身分証明書とのチェックも問題なく順調に終了しました。

部隊研修に市ヶ谷ツアーを選んだ理由は、日本人として忘れてはならない戦争に纏（まつ）わる「大本営地下壕跡」の見学ができるためでした。防衛省は港区赤坂六本木（現在の東京ミッドタウン）から平成12年（2000年）に新庁舎完成の市ヶ谷へ移っています。そして、大本営地下壕跡は補修工事が完了した2020年8月から「市ヶ谷ツアー」の午後の見学コースとして一般公開が開始されました。

本「市ヶ谷ツアー」は完全事前予約・定員制で開催は平日のみ。大本営地下壕跡が見学できる午後の部の人気は想像以上に高く、参加申込は大変狭き門となります。（今回湘南支部の部隊研修の予約は、実施2ヶ月前の一般予約受付開始と同時に厳しい受付競争を勝ち抜いた結果でした。）

「市ヶ谷ツアー」は、受付後にオリエンテーションを受け、13…30案内開始「正門」↓大本営地下壕跡↓市ヶ谷記念館↓厚生棟↓「正門」の見学コースを約2時間20分でゆっくり歩くものですが、今回は天候に恵まれていたので、防衛大臣や陸海空及び統合幕僚監部が所在する庁舎A棟から通信B棟などや隊舎も外からのみでしたがそばを通りながら貴重な説明をしてもらえました。厚生棟で休憩と自衛隊グッズなどを購入した後、屋外へリ展示場を見て、普段はなかなか入れないメモリアルゾーン（公務による殉職者の慰霊碑、殉職者慰霊碑をはじめ、市ヶ谷地区に点在していた記念碑・慰霊碑を集約整備した慰霊碑地区）もガイダンスの説明を受けながらゆっくり見

学できました。

さて、お目当ての「大本営地下壕跡」と「市ヶ谷記念館」の見学についてレポートします。ところで、市ヶ谷移転後に勤務された方で、大本営地下壕跡がどこにあるかご存知ですか？私も市ヶ谷での海幕勤務をしましたが、今回初めて大本営地下壕跡に入りました。地下壕跡の入口は、庁舎A棟前の儀仗広場よりも更に国道寄りであり、普通めつたに通らない通路の先にあります。地下壕は南北に3本、東西に2本の壕が交差した構造となっています。3か所の出入り口には、堅固な鉄扉が取り付けられ、内部には大臣室、通信室、炊事場、浴槽等の設備があり、通気筒の2か所の地上部は日本庭園に石灯籠を配置しカモフラージュされていたと説明を受けましたが、私のレポートよりも「百聞は一見にしかず」であり、是非自分の目で見学されることをお勧めします。参加した会員から「この地下壕は、映画『日本のいちばん長い日』にもあるように昭和20年終戦直前、阿南惟幾陸軍大臣が将校達をこの地下壕に集め、8月9日の御前会議においてポツダム宣言受諾を決定した昭和天皇の聖断を伝えたのは本当ですか？」という質問に男性ガイドは参加者の関心の高さに驚き、質問した会員を含む参加者に熱心に説明してくれました。終戦を迎える覚悟と混乱する当時の軍人の気持ちを少しだけ理解できたような気がしました。



大本営地下壕跡

ように思われると思います。私も今回が3度目でしたが、今回初めて三島由紀夫氏が自衛隊に決起を促して演説したバルコニーや乱闘した際の扉の刀傷や、割腹自殺した場所のマーキングなど新たに知るところとなり、その歴史的価値に驚きました。故三島由紀夫氏が今の日本と日本人を見たらどう思うだろうか？きつとあの当時以上に怒っているような気がします。見学コースの随所で記念写真や参加した会員仲間と写真撮る光景も多く見られ、市ヶ谷記念館前で参加者総員の集合写真の明るい笑顔がとっても印象的でした。担当者として部隊研修の再開はいろいろと苦労しましたが、今回3年ぶりに部隊研修を実施できて良かったと勇気付けられました。まだまだ、新型コロナウイルス感染拡大をはじめ、ウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル発射事案など、これからの日本を取り巻く環境は不安定ですが、隊友会湘南支部として我が国の安全保障に何が貢献できるか追求しながら、来年度以降も部隊研修等の湘南支部活動に邁進しますのでよろしく願いいたします。



市ヶ谷記念館前での集合写真

戦争の絵本

日本では戦争というと第2次世界大戦が直接かかわった戦争で70年以上前のことになる。唯一の原爆被害国であるが直接体験した方はもう少なく、大昔の事となりつつある。半世紀以上戦争がないことは良いことであるが平和ボケに陥る。

ロシアとウクライナなどの報道を見て、子や孫に「戦争つてなに？」と問われて困ったというエピソードが報じられていた。自衛隊は日本で唯一戦争に直接関与する組織である

。そんな自衛官は自分の子や孫に戦争とは何かを十分な説明が出来るか？戦争は世界中で現在も起きており、日本の周囲では台湾、北方領土、ミサイルなど戦争の火種が存在し遠い地域の話ではない。「戦争の絵本」がテレビで紹介されており子ども目線で戦争について描かれており、子どもにも戦争とは何かを伝えることが目的の絵本である。単純に戦争は悪ではない、戦争が起きるとどうなるのかを子どもに伝えるという画期的な絵本である。ウクライナ進攻でロシア軍だけ見ていると軍隊に負の感情を持つ方もいるであろうが、ウクライナ軍に対して負の感情を持つであろうか？軍隊がいなければ誰も困らず平和だったのか？ウクライナ進攻を見た後、日本周囲の情勢を見て、自衛隊が本場に不要であると思う方はどれだけのいるのか。また、ロシア軍も強制的に徴兵された若者やデモ拘束者が予備役として派遣された者もいるように進攻した側にも被害者はいる。そしてロシア側は自分の土地を取り戻すという大義のもと行動しており、それは進攻された側も自分の土地を守るための戦いであり互いに正義なのである。単純に善と悪がはつきりしておらず互いの価値観や正義のもとに戦争が起こる。戦争というものから目を背けるのではなく、子どものころから戦争は何なのかなぜ起きるのかを絵本などを通じて真剣に考えられるようにすることが平和ボケ予防かつ平和につながるのかもしれない。

子、和田兼介、府川太郎、清崎忠園、高山雅司、佐藤友昭、尾崎謙一、窪田朗、田中了、其浦勇治、寺中哲夫、松澤弘海、岡崎光博、牧石健志、福井繁、鳥塚邦明、井岡成吉、菅原政弘、福楽 勲、金子勇二、尾上洋一、水谷宏之、山口真毅、深澤文晴、左奈田幸一、宮城覺映、岩崎政弘、高木幸夫、石川潤一、テクノブリッジ(株)、小見山雅、桜庭憲昭、澤野憲二、青山元彦、高見巖、飯島邦光、宮本直躬、原康二、吉田清人、山本角八郎、中尾眞、
令和4年度年会費納入者(順不同・敬称略)
湘南支部長(十月十六日現在)
次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。
特別会員
高原正彦、鈴木佑弥、正会員

支部の予定

- 11/05 (土) 第7回支部理事役会
- 11/24 (木) 11月隊友紙発送
- 12/上旬 藤沢・平塚広報官激励会
- 12/10 (土) 第8回支部理事役会
- 12/21 (水) 12月隊友紙発送
- 01/14 (土) 第9回支部理事役会
- 01/18 (水) 1月隊友紙発送

編集後記

①10日、在ウ米大使館は滞在する自国民に即時退避するよう勧告した。
②15日、中国外務省はウクライナに滞在する中国国民に対し退避を勧告した。
③15日、ベラルーシ国防省はロシア軍がベラルーシ領内に入ったと発表した。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しく願致します。